

令和7年度 第1回庄原市総合教育会議 次第

と き 令和7年7月25日（金）15:30～

ところ 庄原市役所 5階第1委員会室

1 開会

2 市長あいさつ

3 議題

（1）庄原市教育大綱及び第3期庄原市教育振興基本計画の策定について

（2）近年の少子化による教育現場への影響と今後の取り組みについて

4 その他意見交換

5 閉会

庄原市総合教育会議構成員名簿

職 名	氏 名
庄原市長	八 谷 恭 介
教 育 長	牧 原 明 人
教育委員会委員 (教育長職務代理者)	横 山 和 明
教育委員会委員	立 花 有 佐
教育委員会委員	捻 金 宏 昭
教育委員会委員	渡 部 要

庄原市教育大綱について

1. 趣旨

地方行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第1条の3に規定する「教育大綱」（以下「大綱」）について、本市では、令和3年3月に策定した「第2期庄原市教育振興基本計画」（以下「第2期教育計画」という。）の基本事項部分を大綱として位置付けている。

この度、令和7年度をもって第2期教育計画が終了し、令和8年度を始期とする「第3期庄原市教育振興基本計画（以下「第3期教育計画」という。）」が策定されることから、大綱の策定方針について協議する。

2. 大綱の策定について

平成27年4月1日に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（以下「改正法」という。）」が施行され、教育等の総合的な施策の大綱（以下「大綱」という。）の策定が義務化された。

地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、教育の振興に関する施策の大綱を定めるものとされている。（義務規定）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）【抜粋】

（大綱の策定等）

第1条の3 地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下単に「大綱」という。）を定めるものとする。

2 地方公共団体の長は、大綱を定め、またはこれを変更しようとするときは、あらかじめ次条第1項の総合教育会議において協議するものとする。

3. これまでの経緯

大綱は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策として策定することとされており、文部科学省の通知では、「教育振興基本計画を定める場合において、総合教育会議での協議・調整により、当該計画の目標や基本方針などを大綱に位置づけることも可能」と示されている。

本市においては、平成27年度および令和2年度の第1回総合教育会議において、庄原市教育振興基本計画の基本事項部分を市の大綱として位置付けることので了承されている。

■平成26年7月17日付文部科学省通知

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（抜粋）

第三 大綱の策定について

2 留意事項

（3）地方教育振興基本計画その他の計画との関係

① 地方公共団体において、教育基本法第17条第2項に規定する教育振興基本計画その他の計画を定めている場合には、その中の目標や施策の根本となる方針の部分が大綱に該当すると位置づけることが考えられることから、地方公共団体の長が、総合教育会議において教育委員会と協議・調整し、当該計画をもって大綱に代えることと判断した場合には、別途、大綱を策定する必要はないこと。

■変遷

H27年度	教育振興基本計画の一部を大綱に位置付けることが出来るように法律の一部改正通知有。 第1回総合教育会議において、庄原市教育基本計画の基本事項部分を市の大綱として位置付けることです承された。
H28年度	庄原市教育振興基本計画策定(期間:H28年度～R2年度) 庄原市教育大綱策定(期間:H28年度～R2年度) ※大綱の対象期間は、特段の定めがないため教育振興基本計画の対象期間とする
R2年度	第1回総合教育会議において、第2期教育計画の基本事項部分を市の大綱として位置付けることです承された。
R3年度	第2期教育計画策定(期間:H3年度～R7年度) 庄原市教育大綱策定(期間:R3年度～R7年度) ※大綱の対象期間は、特段の定めがないため教育振興基本計画の対象期間とする

4. 今後の展開について

(1) 整理方針

本会議において第3期教育計画の基本事項部分を大綱とする方針への了承を受け、第3期教育計画の策定に合わせ、同計画の基本事項部分を大綱に位置付けることを決定する。

(2) 大綱の対象期間

大綱の対象期間については、特段の定めがないことから、第3期教育計画の対象期間(令和8年～12年)とする。

■計画の期間

R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13～R17年度
策 定 年 度	第3期庄原市長期総合計画 (R8～R17年度)					
	第3期庄原市教育振興基本計画 (R8～R12年度)					
	庄原市教育大綱 (R8～R12年度)					

(3) 策定までの流れ

年月	会議など	第3期教育計画	大綱
令和7年7月	第1回総合教育会議	・策定概要の説明	・策定概要の説明 ・第3期教育計画の基本理念等を大綱にする方針について了承を得る
10月	第2回総合教育会議	・素案協議	
令和8年1月	第3回総合教育会議	・最終案協議	・第3期教育計画の基本理念等を大綱に位置付けることを決定する
3月	市議会	・策定報告	

第3期庄原市教育振興基本計画の策定について

1. 趣旨

本市の教育振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画として、令和3年3月に「第2期庄原市教育振興基本計画【令和3年度～令和7年度】」（以下「第2期計画」という。）を策定し、「学びと誇りが実感できるまち」の実現に向け、第2期計画で定めた施策等に取り組んできた。

この第2期計画が令和7年度をもって終了することから、令和8年度を始期とする「第3期庄原市教育振興基本計画（以下「第3期計画」という。）」を策定する。

2. 計画の法的根拠と位置づけ

（1）法的根拠

教育基本法では、教育振興基本計画の策定は地方公共団体の努力義務とされているが、教育基本法に示された理念を実現するとともに、引き続き本市の教育振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進を図るため、「第3期計画」を策定する。

なお、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する「大綱」は、地方公共団体の長が、総合教育会議において協議し、定めるものとしている。

教育基本法（平成18年法律第120号）【抜粋】

（教育振興基本計画）

第17条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）【抜粋】

（大綱の策定等）

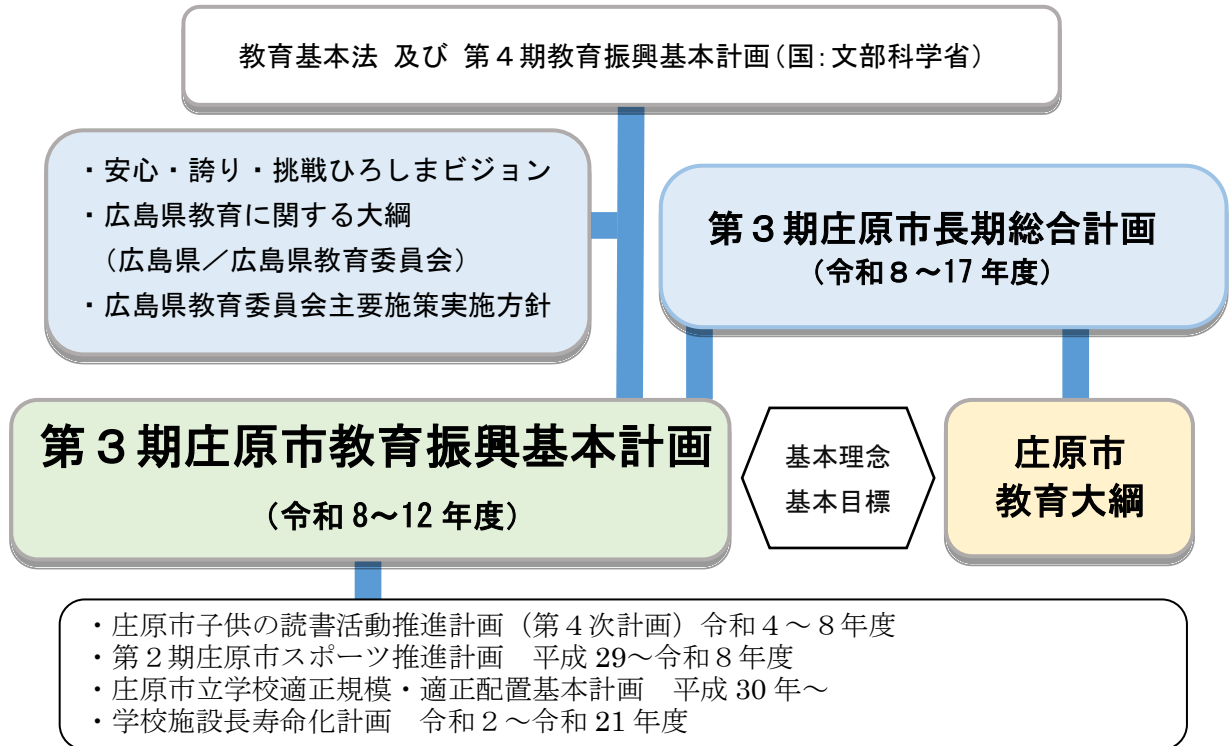
第1条の3 地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下単に「大綱」という。）を定めるものとする。

2 地方公共団体の長は、大綱を定め、またはこれを変更しようとするときは、あらかじめ次条第1項の総合教育会議において協議するものとする。

区分	教育振興基本計画	大綱
根拠法令	教育基本法	地方教育行政の組織及び運営に関する法律
策定主体	地方公共団体	地方公共団体の長 ※総合教育会議において協議を要する
策定方法	国の「教育振興基本計画」を参酌し、その地域の実情に応じ、策定	
範囲等	地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画 ※努力義務	地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱 ※必須

※地方公共団体の長が、総合教育会議において教育委員会と協議・調整し、教育振興基本計画をもって大綱に代えることと判断した場合には、別途、大綱を策定する必要はない。（平成26年7月17日 文部科学省初等中等教育局長通知）

(2) 計画の体系と位置づけ



①教育基本法(平成18年法律第120号)第17条第2項に基づいた「地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」とする。

②国及び広島県の関係計画並びに第3期庄原市長期総合計画、庄原市教育大綱と整合・調整を図り策定する。

3. 計画期間

令和8年度～令和12年度(5年間)

4. 市民等からの意見聴取

(1) 庄原市教育振興基本計画策定検討会(新設)による協議・検討

(2) 市民アンケート調査の実施

(3) 調査結果の分析と課題の整理

(4) パブリックコメントの実施

5. 構成

本計画は、基本事項、第2期計画の検証及び基本計画により構成する。

(1) 基本事項

本計画の趣旨や位置づけ、本市をとりまく教育環境の現状を整理する。

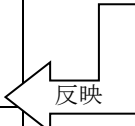
(2) 第2期計画の検証

第2期計画に基づく取り組みの成果と課題を検証する。

(3) 基本計画

本市の現状や第2期計画の検証結果に基づき、本市教育の基本理念や将来像を示すとともに、新たに目標を設定し、今後5年間で取り組むべき施策の概要等を定める。

6. 策定のスケジュール（予定）

年 月	内 容	会議など	【参考】第3期長期総合計画
令和7年 4月	・アンケート内容決定		4～5月 基本構想（素案）調整・検討
5月	・検討会委員委嘱 （教育委員会5月議案）		
6月	・アンケート調査実施 ・第2期計画取り組みまとめ		
7月	・アンケート調査結果分析 ・現状・課題 まとめ ・素案検討 （基本理念・目標・計画）	・総合教育会議（教育大綱位置づけ・策定概要） ・第1回策定検討会（策定概要）	6月～9月 基本構想（素案）作成 基本計画（素案）調整・検討 
8月		・部長支所長会議（素案協議） ・第2回策定検討会（素案協議）	
9月	・素案作成		
10月		・総合教育会議（素案協議）	10月 基本計画（素案）作成
11月	・最終案作成		
12月	・パブリックコメント	・部長支所長会議（最終案協議）	12月 審議会答申
令和8年 1月	・最終案修正	・第3回策定検討会（最終案協議） ・総合教育会議（最終案協議）	1月 パブリックコメント
2月	・最終案決定		
3月	・計画公表	・市議会（策定報告）	3月 議会議決

※上記のほか、毎月開催する教育委員会・教育行政推進調整会議において、適宜協議及び経過報告等を行うものとする。

近年の少子化による教育現場への影響と今後の取り組みについて

1. 少子化の進行に伴う児童・生徒数の状況と将来推計

(1) 小・中学校の児童・生徒数推計（各年5月1日現在）

（単位：人）

年度	児童数	生徒数	合計
平成 17	2,009	1,154	3,163
平成 27	1,673	862	2,535
令和 7	1,292	657	1,949
令和 13(推計)	831	604	1,435

※令和 13 年度の児童・生徒数は、令和 7 年 5 月 1 日時点の子どもの人数から推計

2. 将来を担う人的資源の育成と教育施策のあり方

(1) 資質・能力の育成について

以下の内容は、西城中学校において、生徒が主体的に学び合い、思考力や表現力を高めるための「対話力」を育む取り組みとして実践した事例である。

■西城中学校による探求的な学習に関する研究の取り組み

研究主題	資質・能力の育成-学びを深める「対話力」を育む ～アクション・シンキング・チームワーク～
目的	資質・能力を育む授業スタイルの確立と、対話を通じた深い学びの促進
取組内容	・地域と協働した中で取り組みを進める地域連携学習 ・総合的な学習の時間の新たな単元開発 ・自己表現活動の促進(学習内容をレポートに整理する等) ・自学探求ノート(各教科の課題から、自らが学びたいものを選択し、探求する等)

(2) グローバルな社会で活躍するための資質・能力の向上に関する取り組み

① 「イングリッシュ・キャンプ in 庄原」について

ア. 概要

市内の中学生を対象とした英語体験プログラムで、ALT（英語指導助手）を招いて、英語でのゲームや交流を行う。

イ. 目的

- ・外国語活動を通じたコミュニケーション力の向上と国際理解の促進

ウ. 対象

市内中学生

エ. 実績（前年）

令和 6 年度：15 名

② 中学生による英語スピーチ大会について

ア. 概要

市内の中学生が、自分の夢・家族・体験学習などについて英語で意見や考えを発表する大会で、庄原ロータリークラブ、しょうばら国際交流協会、教育委員会が主催している。

イ. 目的

- ・生徒の英語によるコミュニケーション能力・表現力の向上
- ・自分の考えを英語で伝える経験の場を提供
- ・地域における国際交流・教育活動の活性化

ウ. 対象

市内中学生

エ. 実績

令和7年度：11名

令和7年度 第1回庄原市総合教育会議

議題（2）

近年の少子化による教育現場への影響と
今後の取り組みについて

令和7年7月25日

目次

1. 少子化の進行に伴う児童・生徒数の状況と将来推計

・小中学校の現状について（資料）

（１）小学校ごとの児童数の推移	1
（２）中学校ごとの生徒数の推移	2
（３）平成 17 年度（合併初年度）からの児童・生徒数の変遷.....	2

2. 将来を担う人的資源の育成と教育施策のあり方

（１）資質・能力の育成について

・令和 6 年度西城中学校 研究紀要	3
--------------------------	---

（２）グローバルな社会で活躍するための資質・能力の向上に関する取り組み

・イングリッシュキャンプについて	5
・中学生による英語スピーチについて	6

■小中学校の現状について（資料）

（１）小学校ごとの児童数の推移

各年5月1日現在 令和8年以降は推計値

	学校名	H17	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R13推計-H17	
																				増減	増減率
1	庄原小	476	353	347	329	317	321	345	347	354	352	338	326	286	279	245	230	206	184	△292	△61.3%
	旧川北小		19	21	21	24	20	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
2	永末小	38	43	50	44	49	56	64	75	80	96	100	97	93	86	72	63	56	51	+13	34.2%
3	高小	77	50	48	42	39	37	35	34	37	39	48	46	42	38	30	33	23	18	△59	△76.6%
4	板橋小	170	171	170	158	154	141	120	114	106	109	107	138	140	134	133	134	134	137	△33	△19.4%
	旧峰田小		48	52	53	51	47	44	38	40	37	28	-	-	-	-	-	-	-		
5	東小	155	128	128	128	126	130	130	146	147	154	148	155	147	140	141	145	139	129	△26	△16.8%
6	山内小	75	59	55	58	60	59	57	59	54	62	64	65	59	58	54	45	36	30	△45	△60.0%
7	西城小	170	109	96	91	77	76	77	101	101	89	84	70	59	57	49	48	44	42	△128	△75.3%
	旧美古登小		60	60	62	49	47	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
8	小奴可小	57	34	38	43	50	41	41	39	36	32	25	24	21	20	18	16	11	10	△47	△82.5%
9	東城小	375	257	252	242	233	240	226	226	213	196	191	191	164	151	153	139	130	118	△257	△68.5%
	旧八幡小		26	22	22	19	16	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	旧栗田小		21	22	22	22	18	20	18	16	14	16	-	-	-	-	-	-	-		
10	口和小	122							101	88	80	76	61	57	56	52	48	38	37	△85	△69.7%
	旧口南小		52	56	62	72	72	68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	旧口北小		39	40	40	43	44	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
11	高野小	124	88	87	84	70	68	67	61	56	55	60	55	51	45	44	38	30	26	△98	△79.0%
12	比和小	84	55	46	45	38	37	39	30	32	32	29	26	27	26	25	22	19	16	△68	△81.0%
13	総領小	86	61	58	58	56	53	55	47	42	43	38	38	40	45	41	37	37	33	△53	△61.6%
小学校計		2,009	1,673	1,648	1,604	1,549	1,523	1,493	1,436	1,402	1,390	1,352	1,292	1,186	1,135	1,057	998	903	831	△1,178	△58.6%
前年度比			△336	△25	△44	△55	△26	△30	△57	△34	△12	△38	△60	△106	△51	△78	△59	△95	△72		

※H17の児童数は、統合元の小学校の児童数との合計とした

この推計は、令和7年5月1日時点の住民基本台帳に基づいて算出しており、社会的要因による人口増減については推計に加味していない

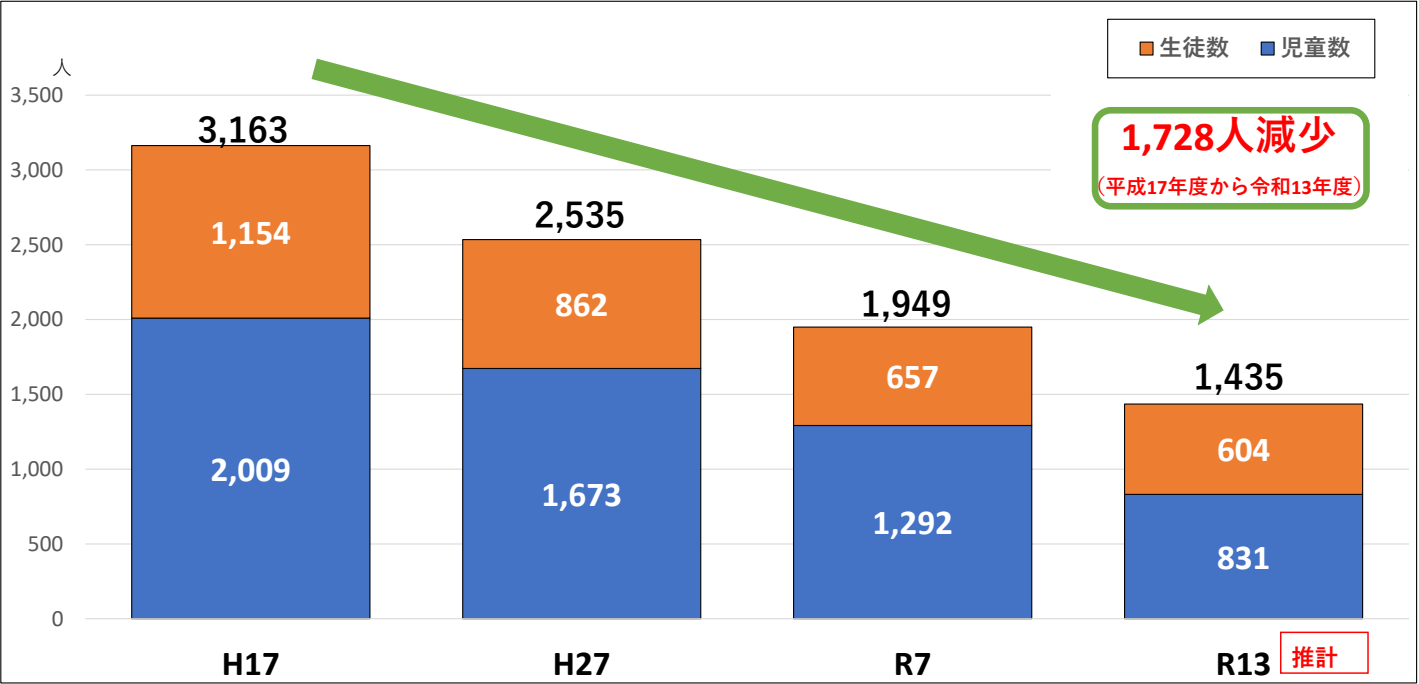
(2) 中学校ごとの生徒数の推移

各年5月1日現在 令和8年以降は推計値

	学校名	H17	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R13推計-H17 増減 増減率		R14	R15	R16	R17	R18	R19
1	庄原中	576	409	432	405	424	412	424	399	401	355	370	361	425	414	438	402	407	389	△187	△32.5%	365	328	286	285	266	263
2	西城中	106	78	76	88	91	91	95	74	66	57	51	49	47	42	44	35	35	26	△80	△75.5%	24	22	23	24	22	19
3	東城中	252	203	187	178	168	156	165	160	164	151	145	146	141	136	114	102	98	101	△151	△59.9%	83	73	70	72	68	58
4	口和中	55	54	50	49	38	39	41	50	56	53	52	46	44	36	31	28	32	30	△25	△45.5%	29	24	22	19	14	15
5	高野中	67	46	47	38	45	42	39	32	30	27	25	25	27	32	29	27	27	26	△41	△61.2%	24	18	18	14	12	8
6	比和中	49	23	25	26	29	24	22	23	19	19	9	10	8	11	12	14	14	14	△35	△71.4%	13	12	11	9	7	5
7	総領中	49	49	44	38	31	23	19	21	25	29	26	20	20	15	20	18	21	18	△31	△63.3%	22	24	23	15	13	10
中学校計		1,154	862	861	822	826	787	805	759	761	691	678	657	712	686	688	626	634	604	△550	△47.7%	560	501	453	438	402	378
前年度比			△292	△1	△39	4	△39	18	△46	2	△70	△13	△21	55	△26	2	△62	8	△30			△44	△59	△48	△15	△36	△24

※この推計は、令和7年5月1日時点の住民基本台帳に基づいて算出しており、社会的要因による人口増減については推計に加味しない

(3) 平成17年度（合併初年度）からの児童・生徒数の変遷



- 生徒数：中学校に通う子ども(12歳～15歳)
- 児童数：小学校に通う子ども(6歳～12歳)

【グラフについて】

- H17年度からR7年度までの児童生徒数(実数)
H17年度(合併初年度)からの児童・生徒数を掲載
※10年ごとの児童生徒数の実数を掲載
 - R13年度の児童生徒数(推計)
令和7年5月1日時点で生まれている子どもの人数に基づいて児童生徒数の推計を算出している。
- ※表中のR13年度は、令和7年5月1日時点の住民基本台帳を基に児童生徒数が推計できる最終年度である。



庄原市研究推進支援事業指定校

令和6年度 庄原市立西城中学校

研究紀要

研究主題

学びを深める「対話力」を育む
～アクション・シンキング・チームワーク～

創

一人一人が輝く
西城中

行

主

一人一人が
主人公

研究構想図



〈研究仮説〉

各教科や学年の取組に『対話』を取り入れ交流する学習活動を行えば、生徒の学力の定着及び教員の授業力を向上できるのではないかと。

成果と課題

教科に関するアンケートより(全教科・全学年平均)

令和6年7月実施

質問項目	肯定的回答
授業が楽しいです。	90.7%
授業がよく分かります。	87.3%
「何を学習するのか」が分かり、解決への見通しをもって授業に参加しています。	89.0%
授業では、自分の考えを積極的に発表(表現)しています。	72.0%

資質・能力に関するアンケートより(全学年平均)

令和6年7月実施

質問項目	肯定的回答
授業で分からないところや知りたいことを質問したり家庭学習で調べたりしようとしています。	86.8%
身の回りの生活や地域社会での出来事に関心をもち、地域で開催される行事には内容によっては参加しようと思っています。	94.7%
ペアやグループでの話し合いでは、仲間の意見や考えを聞いたり、自分の考えを話したりしようとしています。	92.1%
授業の中で自分の思いや考えをもち、様々な場面で表現しようとしています。	68.4%
スピーチやプレゼン以外の表現方法も考えて伝えることができます。	68.4%

成果は3点ある。1点目は、生徒の授業に対する意欲向上が見られる点である。西中授業システムの充実及び探究を意識した単元や授業づくりの工夫を行ったことで「授業が楽しい、分かる。」生徒が増えている。2点目は、郷土への愛着や貢献意識がより高まっている点である。昨年度までの総合的な学習の時間での「郷土を考える」のテーマを継承しつつ、今年度の新たな視点で単元開発に取り組むことで、地域とのつながりが広く深くなっている。3点目は、ペアやグループでの対話で自分の考えを話せる生徒が増えている点である。生徒同士の対話の機会を増やすことで、生徒は意見交流に慣れ、自信をもって話せるようになってきている。

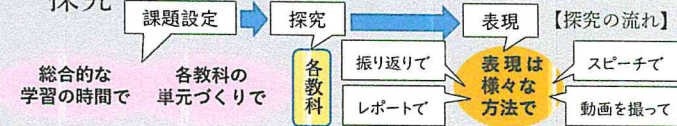
一方で課題は、さらなる表現力の向上である。仲間との対話自体には、肯定的に取り組んでいるが、表現方法が毎回同じになったり、いつもと違う場面での発表には苦手意識をもったりしており、アンケート結果も他項目と比べ、低い数値となっている。ペアやグループでの対話には意欲があることを踏まえて、さらに表現の幅を広げ、表現の質のレベルを向上できる機会を創出していく必要がある。

西中授業システム

昨年度より「西中授業システム」として、次のように授業づくりのポイントを意識して、全教科で取り組んでいる。今年度は、この中でも「Joyful・Opinion(楽しく自己表現)」を特に意識し、昨年度の実践をもとに徹底・充実を図る。

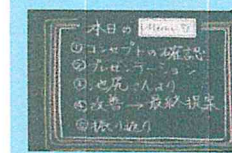
Search

探究



Agenda

見通し



本時の見通し

単元の見通し

ICT

端末活用

効果的にタブレット端末を利用し、考えを共有、整理することで学びを深める。



Joyful

楽しく
Opinion

自己表現

授業の中で、生徒が自分の意見を、「対話」を通して楽しく自己表現する。



【様々なものの対話】



考えたことを仲間
に発信する。

仲間と対話しながら学ぶ。

自分たちの思い
をプレゼンする。

地域と関わる単元開発

総合的な学習の時間の新たな単元開発

1年生の取組



考えたシナリオを地域の関係者にプレゼン。

実際に地域の名所に訪れ、地域の魅力を体感し、撮影に臨む。

「西城をもっと元気に」を合言葉に、地域の魅力を伝えるための動画づくりに取り組み、ドラマ仕立てのシナリオを考え、地域の関係者の協力のもと撮影を行った。

地域との連携

2年生の取組



体験を通して地域の農産物の魅力に触れる。

農産物を広めるための貢献物を作成。

本校の職場体験学習は農業体験として地域の農家の協力のもと実施している。今年度は5月と9月の2回に分けて体験を行うことで、植付から収穫の過程を体験するとともに、農家さんとの絆をより深め、より充実した貢献活動につなげた。

学力の定着を図る表現

自己表現活動

学習内容をレポート等に整理し、学んだことを伝え合う。

(事例)社会科の取組

様々な学習方法の提示→次につながる活動

単元を貫く問い
「日本人にとって、太平洋戦争とは何だったのか？」

単元を貫く問いを提示し、学習方法を自分で選択して学習を進める。

教科書 ICT 端末
プリント ワーク 図書室の本



学習したことをレポートで整理。全体やペアで表現する機会を設定し、学習の定着を図る。

相互表現活動

相手と考えを話合うことで、学びをより深める。

(事例)数学科の取組

自由進度学習の取組



仲間と！

先生と！

ICTで！

数学科では、自由進度学習を取り入れており、自分で学習の仕方を選択して学習に取り組んでいる。1学期末の生徒アンケートを見ても生徒自身が自由進度学習を肯定的に捉えており、「数学が好き」の肯定的回答が全学年100%であった。自由進度学習の中で自分の学びに責任をもち、粘り強く、自己調整しながら学習を進めている様子が見られる。

また、自由進度学習を通して自分なりに学び方を工夫するなど、自分の学びを自己調整する力が高まっていることを生徒自らが実感できている。

探究の過程（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）を1プロセスとし、プロセスをステップアップしながら積み重ね、単元のゴールを目指す。

3年生の取組



JAの指導のもと、トマト等を栽培。

考案した献立をヒバゴン食堂に提案。

昨年度の3年生がつくった畑を引き継ぎ、野菜を栽培し、つくった野菜とその野菜を使った献立を考えヒバゴン食堂（地域食堂）に提供する貢献活動を行った。献立の提案では、考えた献立を実際に家で作るなどにより説得力ある表現を工夫し、採用された。

【完成したメニュー】

自らが学ぶ探究表現

自学探究ノート

各教科の課題から、自分が学びを深めたいものを選択し、探究する力を身に付ける。

【1学期の探究ノートで提示した課題（一部）】

課題選択

学年ごとに教科で探究課題を提示。課題を何にするか自分で決定する。

1年社会
「世界の国を調べよう」

2年英語
「ごんぎつね（英語版）を読む」

3年保健体育
「西城中学校応急手当ハンドブック」

自学探究



【探究ノート（一部）】

選択した課題の内容について、自学ノートに取り組んだことを整理。

内容交流



【交流の様子】

取り組んだ内容を各学年で交流。

家庭学習充実ウィーク

自分の生活を見つめ、自分に合った学習計画を立て、実行する力を身に付ける。定期試験前後で期間を設定し、試験に備えて自分の時間を主体的に過ごす。

①試験範囲計画表配付
試験範囲・提出物をもとに試験に向けて2週間分の計画を立てる。

②事前全局面談
先生と計画表をもとに面談をし、計画を検討する。そして実行する。

③事後全局面談
結果をもとに、振り返る。先生と面談し、今後の学習につなげる。

定期的に面談を行うことで、生徒の様子を把握することができる。

西城中学校で育成したい資質・能力

Action
主体性

- ・主体性
- ・自己理解
- ・将来
- ・社会参画

対話力

Thinking
課題解決力

- ・課題の設定
- ・計画
- ・情報の収集
- ・整理・分析
- ・まとめ・表現
- ・振り返り

Teamwork
協調性

- ・相互理解
- ・協働
- ・役割・貢献

教員自身の授業改善

相互授業参観の実施

他教科の授業を参観し、お互いに評価することで、自分の授業改善につなげる。

Search 探究

本質的な問いを用いたワクワクする課題作りができていますか。

Agenda 見通し

授業始めに、本時の流れを提示し、生徒が見通しをもち、主体となれる授業となっているか。

ICT 端末活用

効果的にタブレット端末を利用して、考えを共有、整理することで学びを深めているか。

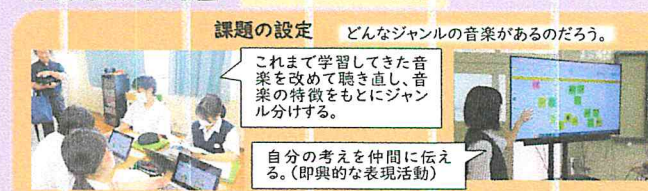
Joyful 楽しく
Opinion 自己表現

授業の中で、生徒が自分の意見を「対話」を通して楽しく表現できているか。

各教科における探究を意識した単元開発

(事例)音楽科の取組

新たな題材への挑戦



課題の設定 どんなジャンルの音楽があるのだろう。

これまで学習してきた音楽を改めて聴き直し、音楽の特徴をもとにジャンル分けする。

自分の考えを仲間に伝える。（即興的な表現活動）

情報の収集
それぞれの音楽の代表曲は、どんなことを伝えたかったのだろう。

整理・分析
様々な視点で音楽を探ろう。

まとめ・表現
プレゼンで曲の良さを伝えよう。

探究のプロセスを教科に取り入れた単元開発や授業づくりを通して、主体的・対話的で深い学びを目指す。

↑ 西中オリジナル授業評価シートを活用



ビンゴインタビュー
～英語で自己紹介～



すごろくゲーム
～お互いのことを知ろう～



昼休憩の様子
～カードゲームで楽しく交流～



世界一周ブースアクティビティ
～食べ物、スイーツ、場所、アクティビティ～



世界から庄原へ
～庄原にもこんな〇〇があったらいいな～



オリンピッククイズ
～グループ対抗でクイズに挑戦！～



プレゼンテーション
～日本のオリンピック選手を紹介～



オリンピック in 庄原
～こんな競技があったらいいな～



【参加者振り返りより】

- 全てのイベントがとても楽しかったです。いろいろなことも体験できたし、もっと英語が好きになりました。時間があっという間に過ぎていきました。
- 今回のイングリッシュ・キャンプみたいに実際にネイティブの人たちと話す機会がなかったので、良い時間になりました。授業で習ったことをこのような場できちんと生かしていけるようにしたいと思いました。他校の人たちとも交流ができて楽しかったです。
- うまく受け答えをすることができなかったけど、うまく伝えようと頑張ることができたし、イベントもとても楽しかったので来てよかったと思いました。
- たくさんの人と会話したり意見を交流できたりしたのでこのようなイベントを毎年1回ではなく、2回、3回と行ってほしいと思いました。
- 次のイングリッシュ・キャンプでは、自分がどれだけできるよになっているかが楽しみなので、次回もまた参加したい。



地域
推進課

新たな一步を踏み出すきっかけに

県大生を対象とした庄原ファンクラブ交流会

5月23日、庄原グランドホテルで、県立広島大学庄原キャンパスの学生を対象に「庄原スタートダッシュ交流会」を開催し、新入生を含む35名の学生が参加しました。

この企画は、県内外から初めて本市を訪れる学生が多くいることから、本市の自然・歴史・文化・食など、多様な魅力を楽しみながら知ってもらうために実施しました。

当日は、本市に関するクイズや、市内で取れたコシヒカリすくいなどで盛り上がり、新入生は、上級生と同じ席を囲み、和やかな雰囲気の中、大学生生活などについて情報交換を行い、交流を深めました。

参加した学生からは、「他の新入生や上級生と交流できて良かった」「庄原の魅力を知るきっかけになり、これから良いところを見つけていきたい」などの声が寄せられました。



和やかな雰囲気での記念撮影



サークルでの取り組みを発表する学生

教育
指導課

伝える力、英語で試す舞台

第20回中学生による英語スピーチ大会

庄原ロータリークラブ会長賞
谷本 徳権（東城中2年）
しょうばら国際交流協会会長賞
平田 七海（総領中2年）
庄原市教育委員会教育長賞
早川 怜沙（総領中3年）

第20回中学生による英語スピーチ大会
受賞者
（順不同・敬称略）

6月8日、ふれあいセンターで「第20回中学生による英語スピーチ大会」を、庄原ロータリークラブ、しょうばら国際交流協会、教育委員会の3者合同で開催しました。

当日は、多くの観客が見守る中、市内の中学生11人が、自分の思いや考え、気持ちなどを英語で発表しました。

総領中の早川 怜沙さんは、「The importance of having fun」（楽しむことの大切さ）というタイトルで「ある動画をきっかけに、再びピアノを楽しみながら弾くようになり、合唱コンクールのピアノ伴奏も経験して、自身の成長につながった。これからも楽しむことの大切さを忘れずに、いろいろなことに挑戦していきたい」と英語でスピーチしました。



観客の前でスピーチする早川さん

生涯
学習課

専門指導による競技力向上支援

レベルアップスポーツ教室 陸上教室



講師からアドバイスを受ける参加者



参加者全員で集合写真

6月10・17日、上野総合公園陸上競技場で「令和7年度レベルアップスポーツ教室」を開催し、小学4～6年生の計87人が参加しました。

陸上競技の専門的指導者を講師に、スポーツの基本である「走る」「跳ぶ」技術の習得と向上を目指し、基礎的なトレーニングや速く走るコツなどを学びました。

参加者は「いつもより速く走ることができて嬉しかった」「大会で良い記録が出せるように、毎日の練習を頑張っていきたい」と話しました。